

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	京都大学 霊長類研究所
日本側コーディネーター所属・氏名	霊長類研究所・松沢哲郎
研究交流課題名	心の起源を探る比較認知科学研究の国際連携拠点形成
相手国及び拠点機関名	ドイツ、マックスプランク進化人類学研究所 イギリス、セントアンドリュース大学 アメリカ、カリフォルニア工科大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間（最長5年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

人間を特徴づける認知機能とその発達的な変化の特性を知るうえで、「それらがどのように進化してきたか」という理解が必要不可欠である。本研究交流計画は、①人間にとって最も近縁なパン属2種（チンパンジーとボノボ）を研究対象に、②野外研究と実験研究を組み合わせ、③日独米英の先進4か国の国際連携拠点を構築することで、人間の認知機能の特徴を明らかにすることを目的とする。平成22-24年度採択の最先端研究基盤支援事業によって、京大の霊長類研究所と熊本サンクチュアリに、比較認知科学実験施設が整備された。その整備によって日本には皆無のボノボ（チンパンジーの同属別種）の1群を平成25年10月に北米から導入できることになった。そこで世界に類例のない新たな試みとして、チンパンジーとボノボの双方を対象にした比較認知科学研究を国際的な連携のもとに推進したい。申請者は、「進化の隣人」と呼べるチンパンジーを対象にした研究をおこなってきた。その過程で、チンパンジーには瞬間視記憶があることを発見した。一方、人間の言語につながる象徴の成立が彼らには困難なことを実証した。「想像するちから」と呼べる認知的基盤が、人間の本性だといえる。本研究交流計画では、日独米英の先進4か国による国際共同研究を醸成し、ヒト科3種の比較研究を通じて、「人間とは何か」という究極的な問いへの答えを探ることを目的とする。

【研究交流計画の概要】①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

第1の共同研究としては、各国のもつ研究資源を活かした共同研究を実施する。国際連携の拠点は日本である。なぜなら日本だけがチンパンジーとボノボ、野生と実験室という、2*2のすべての研究資源をもっているからである。すなわち日本は、野外研究としてチンパンジー（ボツウ）とボノボ（ワンバ）という調査地をもつ。実験研究として、霊長類研究所と野生動物研究センター熊本サンクチュアリをあわせて73個体のチンパンジーを有し、平成25年10月に日本で初めて6個体のボノボを輸入できることになった。しかし、北米から輸入したボノボで明確なように、北米とヨーロッパのほうがこの点では進んでいる。それぞれボノボを保有して、実験的な研究をおこなってきた。ドイツのマックスプランク進化人類学研究所やカリフォルニア工科大学を窓口としたアメリカとの連携なしにボノボの研究は進展しない。またチンパンジーは西アフリカのボツウの研究だけでなく、英国のもつ東アフリカのブドンゴの森の研究と、米国のもつ中央アフリカのグアロウゴの森の研究があってはじめてアフリカを覆うことができる。日本のもっている資源を生かして英米独を引き寄せ、日本がもっていない資源を英米独に頼ることで、共同研究を推進する。

第2のセミナーとしては、日独米英のもちまわりで、セミナーを開催する。平成26年は日本で開催し国際霊長類学会2016年ベトナム大会のサテライトとする。平成27年はドイツ、平成28年は米国、平成29年は英国、そしてまとめの国際セミナーを再度平成30年に日本で開催する。国際セミナーの開催目的は、共同研究の成果の交換と、研究者交流の糸口の提供にある。

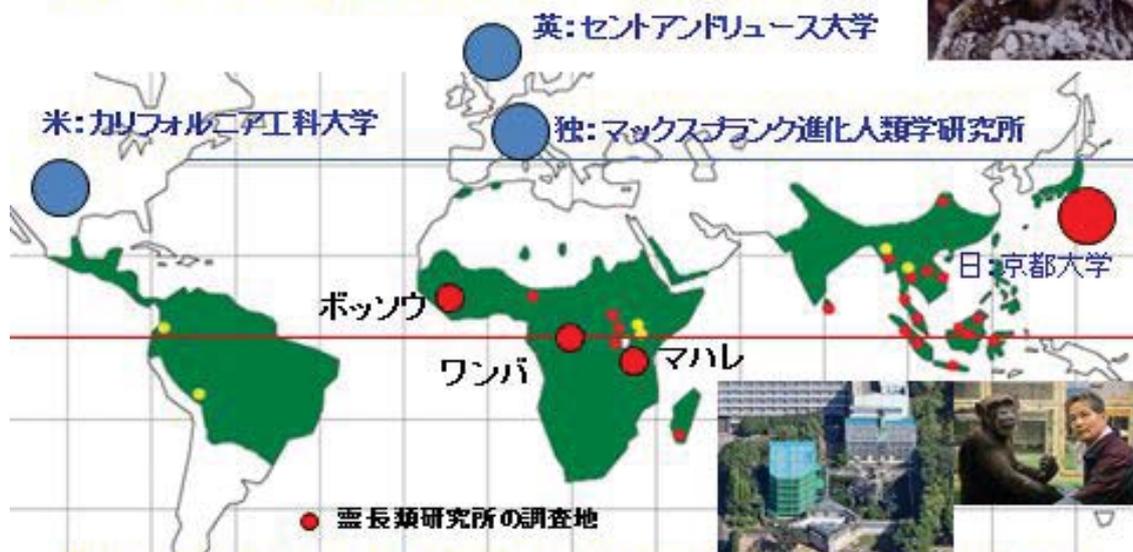
第3の研究者交流としては、各国の主要な研究者の交流と、ポスドク・大学院生を含めた若手研究者の交流を目的とする。具体的には、日本については、霊長類研究所と熊本サンクチュアリにおける認知実験研究に携わる独英米の研究者と、ボツウとワンバで野外研究をする独英米の研究者がいる。日本人は、独米英の有する実験施設（とくにボノボ）と、ウガンダのブドンゴ、コンゴのグラロウゴ、コートジボワールのタイでの野外研究をおこなう。人間とチンパンジーとボノボの比較認知科学研究を実施する。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長5年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

日本は野生霊長類の生息する唯一の先進国

北アメリカとヨーロッパにサルはいない
日本の地の利と最先端の研究を活かす

北限のサル



日独米英の先進4か国による国際連携でチンパンジー・ボノボ研究を推進する

ヒト科3種の比較認知科学研究の構図

研究者は日独米英の「北」において日本はその中でも優位性がある



ヒト科3種そのものは野生状態では「南」と呼ぶアフリカに起源